

コロナ後の医療と介護の展望 2025-2040年

- 2021年1月14日
- 医療介護福祉政策研究フォーラム
- 新春座談会
- 埼玉県立大学・慶應義塾大学
- 田中 滋

01/14/2021 版權 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

1

1

直面してきた時代のニーズ：代表例

- スペイン風邪(1918-20)
- 胃腸炎(1915-35)
- 青年の結核(~1950)
- 脳血管疾患死(~1980)
- 寝たきり老人(1990's)
- がん、生活習慣病、メンタルヘルス
- 介護予防・悪化予防、認知症
- 新興感染症

01/14/2021 版權 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

2

2

コロナ後の医療介護展望 改めて「地域完結型」へ

- 85歳＋人口1,000万人、入院患者の過半が75歳超
 - (高度)急性期医療の人的資源を厚く
 - ただし急性期入院病床は療養生活環境ではない
 - 介護ニーズ発生・悪化が起きる前に(社会)生活復帰
- 地域包括ケアシステムにおける医療提供体制：次頁
- 医療機関における介護ニーズ(特に認知症対応)

01/14/2021 著作権 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

3

Integration：医療介護連携・協働

- 地域包括ケアシステムにおける医療
 - 在宅者のための外来と訪問診療だけではなく
 - 介護施設・地域密着型事業所 etc.
- 入退院・入退所時
- 在宅医療・訪問看護・看多機 etc.
 - 入院と急変を減らす、退院後の生活復帰支援、看取りを支える
 - 診療所のみならず地域を支える病院も
- リハビリテーション・栄養ケア・口腔ケア

01/14/2021 著作権 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

4

5

Integration : 医療介護連携・協働

■ 普遍性

- 罹患リスク・要介護リスク
- 医学に基づく診断・治療、ケア技法、公衆衛生
- 共助との親和性

■ 好事例の横展開可能性：高

- 標準カリキュラムと専門職資格：全国共通、IPE
- 多職種協働：ケアプランと予後予測の理解共有とIPW
- 専門職団体・専門事業所同士：情報共有と連携推進

01/14/2021 版權 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

5

6

Community Based Care 日常の暮らしの支援と予防に関わる地域ケア

■ 独自性

- 気候風土・文化・伝統
- 住民の年齢構成・経済力・付き合いの濃淡
- 課題と資源
- 自治体の意欲と能力

■ 横展開は主たる普及方法とは言えない

- 好事例の出来上がった姿の真似
- プロセス

01/14/2021 版權 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

6

7

Community Based Care

日常の暮らしの支援と予防に関わる地域ケア

- より広く捉えれば地域づくり：「地域を耕す」
 - 仕掛け：地域支援事業、生活支援コーディネーター、認知症サポーター・認知症地域支援推進員
 - 医療機関・介護事業者等による外出・買い物支援
 - 民間企業を含む多様な主体の参加：川崎市・豊明市・名張市...
- 先進事例：成功した結果？ 多くの課題と奮闘している？
 - 誰も手を付けていない分野に先進的に取り組むと…
 - 解決は簡単ではない
 - どのようなステップが大事なのか
 - 先進的に苦しんだ事例

01/14/2021 版權 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

7

8

Social Inclusion：共生社会 医療介護展望の視点から見ると

- 健康の社会的決定要因
 - 年齢・遺伝・性別
 - 健康習慣
 - 社会経済状況：教育・経済力・職業
 - 生活環境：住まい・受診便宜・買い物・交通手段・治安 etc.
 - 地域の社会的ネットワーク、付き合いの濃淡
 - 社会の在り方、文化・社会制度・格差・マクロ経済動向 etc.

01/14/2021 版權 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

8

Social Inclusion : 共生社会の哲学

■ 多様性の尊重

- × 「もたれ合い」、「丸ごと生活共同体論」
- × 「みなが同じ目標・考え方をもつ」全体主義まがいの方向
- 多様性を認め合う緩やかな視点
- 「みんなちがって、みんないい。」(金子みすゞ『私と小鳥と鈴と』)

■ 専門職が支える→地域の様々な人や組織で支える

■ 「生活圏域単位」の意味

- 介護サービス→医療介護連携と生活支援→共生

01/14/2021 版權 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

9

おわりに

■ 医療と介護が支える人生究極の目的

- 尊厳ある看取り＝「卒業」支援
- 人々の「生き抜く力」と「死に逝く力」(注)を支援し
「傍らで見守る力」＋「共感する力」を育む

注：筒井孝子『地域包括ケアシステムの深化』、中央法規2019、p.5

- 人生最後の役割：感謝が周囲に伝わること

■ 詩的には「地域の物語」づくり

01/14/2021 版權 埼玉県立大学・慶應義塾大学 田中 滋

10

プロフィール

田中 滋 (たなか しげる)

- 公立大学法人埼玉県立大学理事長(2018年4月～)・慶應義塾大学名誉教授(2014年4月～)
- 専門：地域包括ケアシステム論、医療・高齢者ケア政策、医療・介護経営、医療経済学
- 経歴：1977年慶應義塾大学ビジネススクール助手、1981年同大学大学院経営管理研究科助教授、1993年同研究科教授
- 現在務める学会役員：日本地域包括ケア学会理事長、日本介護経営学会会長、アジア太平洋ヘルスサポート学会理事長、日本ケアマネジメント学会理事
- 現在務める主な公職：社会保障審議会委員(介護給付費分科会長・福祉部会長・医療部会部会長代理)、医療介護総合確保促進会議座長、協会けんぽ運営委員長
- 手に入りやすい近著：「多世代共生社会に地域包括ケアシステムを役立てる」齋藤英彦編『医の希望』所収(岩波新書)2019年、『新版 地域包括ケア サクセスガイド「住み慣れた地域で自分らしい暮らし」を実現する』(監修)メディカ出版 2020年